

PARTNERS

VAPSn XPEL
Car Protection Specialist

TWS

信頼と安心のネットワーク
OTG
OSAKA TOYOPET GROUP

Asuka

PLAT2

Revit
HIGH QUALITY CUSTOM PARTS

REIZ
HIGH QUALITY CUSTOM PARTS

Keiichi Kobayashi Official Release

▶ Race Report

PETRONAS TWS GS350 岡山ラウンドで初優勝を達成！

26 August, 2012

■公式予選 【天候】 晴 【コース】 ドライ

スポーツランドSUGOで開催されたシリーズ第3戦から3か月余。しばらくのインターバルを挟み行われる格好となった第4戦が岡山国際サーキットを舞台に、8月25-26日に開催された。

岡山国際サーキットの特徴は何といても典型的なテクニカルコースであること。高速コーナーから低速コーナーまでがバランス良くレイアウトされており、マシンの成熟度とドライバーの腕が試される事となる。OTGモータースポーツのPETRONAS TWS GS350は、開幕戦こそDNFに終わったものの、その後の第2戦、第3戦は連続して3位表彰台を獲得。8月には鈴鹿でのテストも行いマシンも進化、さらに前日の練習走行では新しい仕様でのセットアップを煮詰めてきており、当然ここ岡山での初優勝を狙い初日のセッションに挑む事となった。

小林敬一は今回のレースは監督としてピットから指示を出す中、迎えた初日の公式予選。Aドライバー予選でマシンに乗り込んだのは吉本選手。するとその吉本選手はこのセッションでマシンのポテンシャルが大幅にアップされてきた事を証明して見せる。これまでは予選トップのマシンからは1秒以上遅れる展開が続いていたが、このレースを前に小林も参加したテストの成果を証明、何とこのセッションでトップから0.7秒差となる1'41"576をマーク。3番手に着けマシンをBドライバー予選の佐藤選手へと託していく。するとその佐藤選手も1'41"954をマーク。合算タイムでは4番手に食い込み、今季のベストグリッドを獲得する事に成功。「低速コーナーでマシンが暴れる症状はあるけど、マシンバランスはこれまでで最高。クラストップから1秒以内は凄い進歩。事前の鈴鹿テストがかなり効いています。これまで「一発」のタイムが出せなかったけど、そこが出る様になった。」と、今季初優勝を虎視眈眈狙い、この日のセッションを終了する事となった。

■決勝 【天候】 晴 【コース】 ドライ

まもなく9月を迎える時期とは思えないほどの暑さに見舞われた決勝日の岡山国際サーキット。2012年スーパー耐久シリーズ第4戦の決勝は、ドライバーにもマシンにも厳しい条件が揃う中、定刻通りの午後1時20分にフォーメーションラップが始まった。

このスタートでPETRONAS TWS GS350のステアリングを握ったのは吉本選手。作戦ではここで吉本選手がロングスティントを担当、その後の展開に合わせ佐藤選手、脇阪選手へと繋ごうというもの。ところが綺麗に切られたと思われたスタート直後、その思惑とは全く異なる展開が待っていた。なんと裏ストレートで岡部自動車メーカーズZ34とOlive SPA+KOTA RACING NSXが接触。これにGPO+KOTA RACING S2000も巻き込まれ、この3台のマシンがコース脇にストップ。このマシンを回収する為コース上にはセーフティカー（SC）が入ることに。

ここで迷わず作戦をフレキシブルに変更したのはOTGモータースポーツ。小林は無線ですぐさま吉本をピットに呼び戻し、ここで佐藤選手とドライバー交代する事を選択。今回のレースで義務付けられている2回のピットストップのうち1回を消化、5周に及んだSCラン明けのレースリスタートが切られた段階で2番手に浮上する事に成功する。するとその後も佐藤選手は素晴らしいペースで周回を重ね、レース41周目に岡部自動車マイロード協新計測RX-7の前に立つことに成功、56周目に最終スティントの脇阪選手へとステアリングを託していく。

PETRONAS TWS GS350はこのピットストップの間にassetテクノZ33の先行を許したものの、同マシンはまだ1回のピットストップを残しており、87周目には再びトップに浮上する事に成功。すると脇阪選手はその後そのポジションをきっちりとキープ。「1回目のピットストップも、その後の二人のペースも戦略も、全てが99.9%完璧」と最後まで危なげのない周回を重ね、最後はOTGの大応援団が見守る中トップでチェッカーを受け、遂に、待ちに待った初優勝を飾ることとなった。

今回はサポートレースでVIZレーシングも開催されておりOTGからは2台が出場していたが、そのレースで小林が指導を担当していた浦川猛朗選手がスタート直後のアクシデントを上手くすり抜け見事2位表彰台、さらにもう一台の山口慎一郎選手も6位入賞を果たす等、この日はOTGは何かを持っていたのかもしれない。

次戦はWTCC併催のシリーズ第5戦。このラウンドは2回のスプリントレースで争われるが、このラウンドでのPETRONAS TWS GS350今季2勝目はなるか。その活躍に期待が高まる。

12' Super Taikyu Series Round 4 / okayama
2012.8.25-26 (sat/sun) Qualify & Final

【OSAKA TOYOPET motor sports report】 <http://www.osaka-toyopet.jp/contents/motor-sports-report/>

【OTG Motor Sports Club blog】 <http://blog.zaq.ne.jp/otgmisc/>

【Super Taikyu Series Official Site】 <http://www.supertaikyu.com/>

【Keiichi Kobayashi Official Site】 <http://www.koba-pla.net/>

▶ 小林敬一 コメント

26 August, 2012

今回は大阪トヨペットグループ（OTG）大応援団が来られたことからドライバーはじめメカニックスタッフもすごいプレッシャーの中良い仕事ができたと。レース内容もこういった大応援団のパワーなのか運気もチームに完全に向いていたと思う。理想的な結果だったと思う。

流れがずっと良いので次戦の鈴鹿も頑張ります。

PARTNERS

VAPSn XPEL
Car Protection Specialist

TWS

信頼と安心のネットワーク
OTG
OSAKA TOYOPET GROUP

Asuka

PLAT2

Revit
HIGH QUALITY CUSTOM PARTS

REIZ
HIGH QUALITY CUSTOM PARTS



【OSAKA TOYOPET motor sports report】 <http://www.osaka-toyopet.jp/contents/motor-sports-report/>

【OTG Motor Sports Club blog】 <http://blog.zaq.ne.jp/otgmsc/>

【Super Taikyu Series Official Site】 <http://www.supertaikyu.com/>

【Keiichi Kobayashi Official Site】 <http://www.koba-pla.net/>